

エダマメ新品種「サヤムスメ」の 特性と栽培上の要点

雪印種苗㈱千葉研究農場

近 江 公

1 はじめに

エダマメは栄養価も高く、また、ビールの消費増に伴い、その需要も着実に増し、しかも、周年消費される傾向となってきました。生産者サイドから見ると、エダマメは必ずしも高収益作物とは言えませんが、栽培管理が比較的容易で労力もかからず資材費も安いことから、また、減反に伴う水田転換畑利用にも適応し、その作付面積はわずかながら増加傾向を示しています。

弊社では古くからエダマメの品種改良に着手しており、既に「サッポロミドリ」(昭和49年発表)、「ユキムスメ」(同昭和52年)、「美園グリーン」(同昭和57年)、「キタノズ」(同昭和61年)を発表し、各地域で好評をいただいております。

このたび、より濃緑で大莢な新品種「サヤムスメ」の育成を完了(品種登録申請中)しましたので、以下、サヤムスメの特性並びに栽培の要点について紹介します。

2 サヤムスメの品種特性

本品種は白毛、濃緑、大莢、多収で食味良好的な中早生品種の育成を目標に、昭和51年「サッポロミドリ」を母親に、「ユウヅル」を父親として人工交配を行い、選抜、育成いたしました。

1) 熟期

開花期、収穫期ともにユキムスメとほぼ同熟期の中早生種で、開花後35~40日で収穫適期となります。ただし、トンネルなどの早熟栽培や、また西南暖地での栽培ではユキムスメより2~3日程度生育が遅れる傾向があります。

2) 草姿

草丈はユキムスメ並みの60~70cm前後(一般露地栽培)ですが、葉色は極めて濃緑でサッポロミドリと似ており、茎は太く根張りも良く、耐倒伏性に優れています。

3) 莢の形質

表1のとおり、極めて濃緑、大莢で、中晩生品種並みの莢の形質を兼ね備えておりますので、市場での高い評価が期待できます。

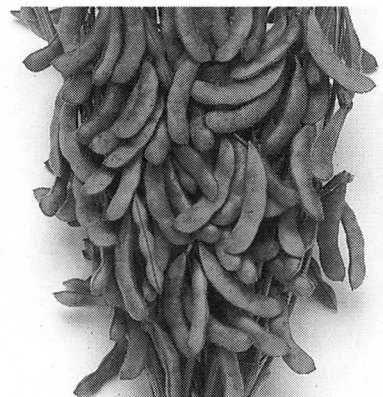
4) 収量性

ユキムスメと比較して1株あたりの稔実莢数はやや少ないですが、莢が大きいので、一莢重が重く、上物収量はほぼユキムスメ並みです。したがって、莢もぎの手間はユキムスメよりかからず収益性の高い品種だと言えます。

5) その他の特性

熟期、収量性はユキムスメクラスで、性格はサッポロミドリですから、それぞれの良い特性を持っております。

特に、連作障害などの土壌伝染性の病気に対しても、ユキムスメより強い傾向を示しております



品質の良いサヤムスメ

表1 エダマメ品種の特性及び収量性

(昭和63年～平成1年, 2か年平均)

品 種	生 育 日 数	主 茎 長 cm	主 茎 節 数	莢 の** 大 小	莢 色	2粒莢		上 物 収 量	上物率	莢 割* れ 率
						長 さ	幅			
	日	cm		9~1	9~1	cm	cm	kg/a	%	%
(5月上旬播種露地栽培 千葉研究農場)										
サヤムスメ	89.0	40.4	9.8	8.0	7.2	6.1	1.4	75.1	82.3	—
ユキムスメ	86.5	42.4	10.3	6.7	6.5	5.6	1.3	76.8	80.9	—
キタノスズ	87.5	39.8	10.4	6.7	6.7	5.6	1.3	77.7	82.9	—
他社品種A	85.5	42.2	9.8	6.3	6.2	5.6	1.3	73.8	86.0	—
〃 B	86.5	42.0	10.1	6.0	6.5	5.4	1.3	76.8	81.7	—
(5月下旬播種露地栽培 北上現地試験ほ場)										
サヤムスメ	89.5	48.8	9.7	9.0	7.4	5.9	1.4	87.2	88.8	0.1
ユキムスメ	88.5	49.9	11.5	6.5	6.5	5.2	1.3	83.4	84.2	9.3
キタノスズ	89.0	47.4	11.5	7.5	7.0	5.5	1.3	93.7	90.7	0.1
他社品種A	87.5	55.9	11.9	—	6.0	5.5	1.3	—	—	0.7

調査基準 莢の大小：9(大)―1(小), 莢色：9(濃緑色)―1(淡緑色), 上物：2粒以上の莢。

*昭和63年単年成績, **平成1年単年成績。

し、また、莢割れ症状の発生もほとんど見られず、それらが問題となっている地域での作付けも可能です。

3 サヤムスメの栽培のポイント

一般的な栽培管理については他品種と全く変わりありませんが、以下の点について注意して下さい。

1) 作型

適応作型については熟期がそれほど早くなく、また、トンネル早熟栽培では大莢なため開花期以降の莢の肥大に比較的時間を要しますので、一般露地栽培を中心に作付けを行なって下さい。

抑制栽培では草丈が低く、収量性はあまり期待できません。

一般平坦地での4月上旬～5月中旬播き、東北、高冷地での5月中旬～6月上旬播きが最も適した作型となります。

2) 栽植密度

サッポロミドリのような枝付きでの出荷よりはユキムスメなどの莢もぎ(ネット)出荷向きですので、栽植密度はマルチ規格で9,224～9,227や3,327～3,330が良いでしょう。莢色が濃い品種ですから、その特性を生かすよう受光量を考え栽植密度を決定して下さい。

3) 収穫～出荷

サヤムスメはユキムスメなどと比較して莢色が濃く、また、退色が遅いので収穫期間の幅を長くとることが可能です。ただし、食味などの品質面では過熟になると糖分の減少によってまずくなつてきますので、適期収穫を心掛けて下さい。通常、開花後35～40日前後で適期となります。

莢の太りでは8割程度からを目安として下さい。

4 さ い ご に

エダマメも量から質の時代を迎え、規格、等級分けがより細分化され、産地間でのランク付けもより鮮明になってきております。

個人出荷では量的な問題、また、共同出荷では品質のばらつきの問題などがあり、これらを解決し、より良い単価のとれるエダマメ作りを進めていかれる方々に、この品種をお勧めしたいと思えます。

サヤムスメは品質重視の特性を加味した品種です。それだけに、より厳格な選別をお願いします。

(なお、本品種は種子量がまだ少なく、ご迷惑をおかけしますが、翌春より本格販売となりますのでご了承下さい)